

## がんゲノム医療に向けた当院病理部の取り組み②

～プレアナリシス段階での改善報告～

◎川元 幸子<sup>1)</sup>、福永 美里<sup>1)</sup>、田中 友梨<sup>1)</sup>、小村 佳菜子<sup>1)</sup>、藏原 拓也<sup>1)</sup>、嶽 愛美<sup>1)</sup>、持富 ゆかり<sup>1)</sup>、前田 ゆかり<sup>1)</sup>  
相良病院<sup>1)</sup>

【はじめに】2018年日本病理学会より「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規定」（以下規定）が策定され、プレアナリシス段階での適切な検体取扱いが求められている。我々は、がんゲノム医療に向けた当院病理部の取り組みとして、第54回医学検査学会にて固定前プロセスは乳房摘出全検体では99%達成されていたが、乳房全切除術（以下Bt）検体の室温30分以内固定開始は72%達成、固定プロセスにおいては、48時間以内での固定終了は67%達成にとどまり、改善の余地があると報告した。そこで今回、この課題について改善を行ったので報告する

### 【指標】

1. 固定前プロセス：Bt検体の室温30分以内での固定開始
2. 固定プロセス：乳房摘出全検体の48時間以内での固定完了

### 【変更内容】

1. 固定前プロセス
  - ① 腫瘍部採取から、腫瘍部割入れへ手技変更

### 2. 固定プロセス

- ① 3連休前に切り出し実施
- ② 再固定処理作業工程を切り出し後から切り出し前に変更

【対象】2021年5月～12月の乳癌摘出全検体 463件

【結果・考察】固定前プロセスは、腫瘍部割入れへ変更したことで、担当する臨床検査技師の作業時間が短縮し、80%達成し、固定開始は改善された。固定プロセスは、3連休前に切り出し実施の効果により、81%達成し、大幅に固定完了が改善された。しかし、金曜日手術の53例は固定完了までに72時間以上（最長76時間31分）要していた。

【まとめ】プレアナリシス段階での固定前プロセスと、固定プロセスについてPDCAサイクルを回し、約80%の達成が可能となった。今後は固定プロセスの改善のため、金曜日手術の検体について検討し、がんゲノム連携病院としての役割を果たしていきたい。

連絡先：相良病院 099-222-7116(内線1709)